

つながるスイッチ!!

久留米市社会福祉協議会



vol.12

「下田校区」の取り組み

今回は、若い人が積極的になまちづくりに参加している「下田校区」をご紹介します。

下田校区まちづくり振興会

会長 江島 正剛さん
えし ま せいごう

事務局長 徳田 テルミさん
とくた

下田校区まちおこし隊

なかしま
中島 ほのかさん
ふくしま かずき
福島 一輝さん

下田小学校閉校
イベントから
下田舎マルシェへ

20代の中島さんがまちづくりに参加するようになったきっかけは、小学校閉校イベントへの協力を江島さんからお願いされたことでした。中島さんは企画から当日の運営まで、「下田校区まちおこし隊」のメンバーと一緒にイベントに携わりました。「以前から若い人にまちづくりに参加してもらいたいと考えていました」と江島さん。中島さんが小学生だったときの登下校時の見守りや地域・学校行事等でお二人は顔なじみになっていたそうです。

かねてからまちづくりに関心があった中島さんは、「イベントに関わったことで、もっとこんなことができるのでは

ないか」という気つきがあり、その想いを江島会長に手紙で伝えました」と話します。

その後、まちおこし隊に入った中島さん。次は、校区の恒例イベント「下田舎（しもだや）マルシェ」開催に向けて仲間づくりを始めます。後輩の福島さんに、「一緒にイベントを盛り上げてくれない？」と声をかけました。福島さんもイベント準備や会議を重ねるうちに活動に興味をもつようになり、まちおこし隊に入ることになりました。「お世話になっている地元に恩返ししたいという想いが強かったです」と福島さん。そして、中島さんと福島さんがまちおこし隊に入ってから初めてのイベント「第5回下田舎マルシェ in (旧)下田小学校」が令和4年10月23日(日)に開催されました。

多くの出店者によるマルシェをはじめ、ワークショップ、参加型イベント、ステージ、実演販売、プレゼント企画など大賑わいで終わりました。毎年開催されていたイベントですが、いつもと違ったのは、来場者の数だったそうです。徳田さんは「今までより多くの人が来て、盛り上がりました。二人が行っていたインスタグラム(インターネット上の写真共有アプリ。以下「インスタ」)発信が効果的だったようです。チラシだけでは伝わらなかった人たちへも、広く情報が伝わりました」と若い二人の参加で起きた変化を話されました。

インスタでは、事前の告知だけでなく、開催までの準備の様子や、出店店舗・ステージイベントの紹介、当日の会場のライブ配信など、積極的に発信し続け

ました。「参加したくても、校区外に出ていて参加できない下田出身の人が沢山います。その人達にもイベントを感じてほしいと思い、インスタ発信に力を入れました」と福島さん。インスタ登録者数100人が目標でしたが、なんと200人を達成しました。

イベントは大盛況に終わりましたが、課題もたくさんあったといいます。「一番の問題は人手不足でした。様々な人に助けられて下田舎マルシェを行うことができたが、継続していくためにはもっと仲間を増やしていきたいです」と中島さんは話します。



活動をして 思うこと これからのこと

● 江島さん

下田校区は狭い地域なので、小さい頃から皆が顔見知りです。人数が少ないからこそ、強い絆で結ばれていると思っています。下田校区まちおこし隊は平成27年に立ち上がり、多くの人に支えられていますが、中島さん、福島さんに入ってもらったことで、活動が活性化するように思います。若い世代にもまちづくりにどんどん参加してもらいたいです。若い皆さんを支えられるように私もまだまだ頑張りますよ(笑)。皆の意見も積極的に取り入れて、良い方向に進化していきたいです。

下田校区は、これから極端に人口が増えることはなさそうです。でも住みやすく、とても魅力的な地域です。今後、空き家に若い人たちに住んでもらったり、空き家を使ったイベントを行ったりしていきたいです。

● 徳田さん

下田校区のインスタを見た人から、なんと「インスタのやり方を教えてほしい」と依頼がありました。今、福島さんをお願いして、校区でインスタ教室を開催しています。その教室では、生徒さんの練習として、下田校区のアカウントを使った情報発信をしています。それが地域発信の新たな広がり、繋がり、盛り上がり

になるのではと感じています。私はいつも、下田校区という地域に誇りをもって過ごしています。「下田ここにあり！」という気持ちです。「私も頑張らないと」と、若い人達の活躍が励みになっています。

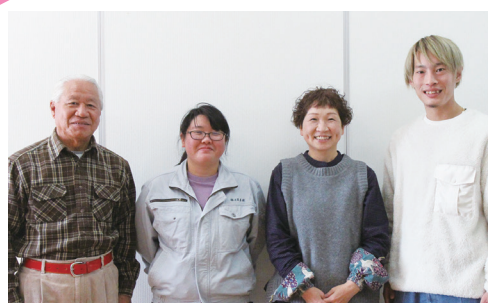
● 中島さん

まちおこし隊に入った理由には、校区を守りたいという気持ちもありました。地域に関わっていると、災害が起きた際に、避難所や被害状況等の情報が入りやすいはず。私は土木関係の仕事をしているので、何か起きた時はダンプロトラックでも何でも動かして、地域の皆さんを守りたいと思っています。ちなみに、今回開設したインスタは、災害時にリアルタイムで情報発信できるデジタル掲示板の役割も兼ね備えているんですよ。

● 福島さん

下田校区には田舎ならではの景色が沢山あるので、今後、その魅力を知ってもらうための写真イベントを行いたいんです。閉校した小学校でイベントをしたり、期間限定カフェをオープンしたりしても楽しそうですね。私はスイーツ店で働いており、将来は、自分のお店を下田校区にオープンさせるのが夢です。

また、まちづくりは、目に見えるかたちで地域に貢献できるので嬉しいですね。まちづくりに興味がある同級生も多いので、仲間を増やしていきたいですね。実は、友達同士で自分達を「下田人」と



江島 正剛さん 中島 ほのかさん 徳田 テルミさん 福島 一輝さん

休みの日の過ごし方をお聞きますと、江島さんと福島さんはゴルフが趣味。「どこに行ってる?」「どれぐらいのスコア?」と、その場でも2人で会話が弾んでいました。中島さんは、休みの日も関係なく動き回っているようで、仕事、プライベート、まちづくり活動にとパワフルに動かれています。徳田さんは、今後、何か楽器を始めたいそう。「下田舎マルシェのステージで演奏を披露してくださいよ!」と、さっそく中島さん、福島さんから来年のオファーを受けていました!

取材を終えて

呼んでいるんですよ。皆、下田校区を誇りに思っています。「地元に住んで、そして地元のために活動する」その楽しさを、これからも表現していきたいです。

つながるスイッチ!!シリーズ初となる20代への取材。そのパワフルさ、明るさ、積極性に驚きました。そこには、「若い世代がまちづくりに参加しない」と嘆くのではなく、若い人に「一緒にやらないか」と自ら声をかけ、お願いしにくく地域の先輩達がいました。江島さんは、「インスタの活用」

など、若い人の提案を積極的に採用



Instagram

下田校区まちづくり振興会

されていたようです。「責任は自分達が取ることから自由にやっていたいよ」と、おおらかに任せる年長者の姿に、懐の大きさを感じました。若い人も、やりがいを感じられたのではないのでしょうか。ずっと校区に住んでいる者同士の信頼関係、そして皆さんが「下田校区」を誇りに思っていて、下田校区が大好きだということを感じることができました。自分達を「下田人」と呼び合う若い世代に、下田校区の明るい未来があり、まだまだ盛り上がりは続きそうです!

- 「何かしたい」と思っていた若い世代が校区イベントに参加。若い世代が提案したInstagramの活用を採用したら、イベント来場者数がとても増えた
- 若い世代の意見を地域づくりに積極的に取り入れている
- 日常のあいさつ、声かけて若い世代と先輩世代の信頼関係ができている
- 年齢に関わらず、校区に愛着をもっている人がいる

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34

TEL: 0942-34-3035

FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net

HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会 検索

つながるスイッチ!!は
HPでも
webマガジンでも
掲載中

webサイト

[note一つくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください!